

こんにちは。今回のパーティにゲストDJとして参加させていただくことになったtawakiです。これを読んでる皆さんは、ゲッターにどのようなイメージをもっていますか？

音楽に造詣が深い人ならキングストンのトレンチタウンやニューヨークのハーレムなんかをイメージするのではないかと思うのですが、私は数年前から大阪の釜ヶ崎という街に強い関心をもっています。釜ヶ崎は西成区の北東部にあるゲッターです。一口にゲッターといっても成立過程は様々で、釜ヶ崎の場合もともと長屋を中心に構成されていたスラム街が高度経済成長期に建設日雇労働者の居住地として作り変えられていったという経緯があります。1950年代までは女性や子供が多く生活していたのですが、高度経済成長期における建設ラッシュ時に、世帯持ち労働者を釜ヶ崎外の市営住宅に住まわせ、資本が利用しやすいよう、単身の男性日雇労働者に特化した街づくりを進めていきました。結果、現在は男女比が10:1という特異な空間となっています。わざわざ言うまでもないことですが、釜ヶ崎の日雇労働者の労働条件は極めて悪く、生活水準は目を覆いたくなるような低さです。昨今社会問題化している大阪のホームレスも半数以上が釜ヶ崎の日雇労働者出身だと言われています。

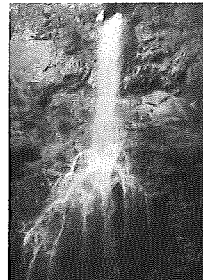
ずいぶん前置きがながくなりましたが、ようやく本題に入りたいと思います。私が釜ヶ崎に関心をもつようになったのは、この地域に独自の音楽文化が根付いているに違いないという期待があったからでした。私の音楽遍歴を辿るとヒップホップ〜ソウル〜レゲエ〜ハウスといった具合になるのですが、いずれの音楽もルーツは紛れもなくゲッターにあり「ghetto is real」という図式が勝手に作られていました。そのような頭で釜ヶ崎に入り出すようになったのですが、最初の1〜2年は自分の期待するような音楽文化に出会わなかったというのが本音です。しかしそれは私の偏狭な見方に過ぎないということがわかってきました。どうやら私は極めて表面的な形状に拘泥していたようで、彼らの「音楽との向き合い方」という本質的な部分を注視すると、極めてゲッター的な文化があることに気付いたのです。

まず「ダンス」について少し例を挙げて紹介したいと思います。ダンスはしばしば「解放の表現」と言われますが、釜ヶ崎のオヤジたちは踊ります。当地では盆と正月に祭りが催されるのですが、そこでいい音がかかれば憚ることなく踊るのです。そこにはくだらない体裁などありません。体の要求に素直に答えているのです。踊っているときの恍惚とした表情、あけすけな態度に感化されます。初老のオヤジたちが踊る光景はなかなか見られるものではありません。気持ちよさそうに踊る姿は逆説的に踊らざるをえないような日常の厳しさを彷彿させます。消費文化が蔓延している私たちの社会では階層に関係なく世界のゲッターミュージックを嗜好品として楽しんでるわけですが、おそらくその本質を理解している者はわずかではないかと思われるのです。理想まじりの勝手な解釈を許してもらえらば、私は釜ヶ崎のオヤジたちこそ、深いレベルでゲッターミュージックを理解できる存在ではないかと思うのです。万もする額のレコードを買うような私たちに何が理解できているのだろうかと思ってしまうのです。もちろんこれは単なる批判ではなく、数年間ゲッターに関わってきた者の自戒を含めた率直な感想です。釜ヶ崎のオヤジが教会で賛美歌を唄う姿に、居酒屋でカラオケを唄う姿にさえ、私は本当のソウルを感じるのです。重要なのは音の格好良さなのではなく、音に込められた「思い」—それは救済であったり感情の代弁だったりする—だと思のです。そこに「忘れがちな何か」があると信じているのですが、私は釜ヶ崎にそれを見出して止まないのです。

皆さんこんにちは。ぶしつけですが皆にもずっと探しているものってあると思います。ボクにもあります。KLEIN & M.B.O.「Dirty Talk」、KASSO「One More Round」、EASY GOING「Fear」などレコードもそうですが滝も例外ではなく探しているけどなかなか見つからない、そんな滝があります。

—奈良県には「笹の滝」と名の付く滝が二瀑存在する。一つは十津川村の「笹の滝」。そしてもう一つは川上村の「笹の滝」である。ボクは川上村の方は未観瀑。なので川上村「笹の滝」を目指した。この滝に関する情報は二つしかない。美しい滝だということ、「御船の滝」の上流だということ。他の滝好きのWEBを見ても所在地の詳細は明かされていない。何故か。水源地が近いので汚されたくないからだ。チクショウ…。滝を理解してるなあ。— これは上記ボクのBlog2005年08月13日の記事の書き出しですが、ボクは川上村に存在する「笹の滝」をずーっと探してたんですよ。先週の日曜日に遂に辿りつくことができたので紹介します。

ボクの自宅から一時間ちよつとで川上村に入る。ドライバーはTHE Ishikura。第四回の「御船の滝」への側道からとある境界を目指す。ここから先は本当は入ってはいけない。滝壺からの水は水源だからだ。この水源地からの水を簡易浄水し村民に供給されている。なので境界付近で衣服しておく。ぼちぼち境界から森に入る。山道を10分くらい登ると水の音が次第に大きくなる。滝がじわじわと姿を現す。下段の分岐している部分が見え出してくると、非常に興奮しましたね。じらしながら姿を見せてくれる笹の滝は大変情欲的で素敵でした。朝早くに起きた甲斐があった。刺すように冷たい水に「ビシッ！」と気付かれ、呆然。落差は35mで直瀑部分と分岐の部分に分かれる唯一無二のその様にもボクの頭はクラクラです。浅く澄みきった滝壺に惚れこむファンも多いらしく、美しい滝でした。「滝付近では水を愛でる。」この基本を再確認させてくれた滝でした。場所はヒ・ミツ。



next collective

次回collectiveは
2006年の春の予定です。
来年もよろしくお願ひいたします。

http://www.geocities.jp/collective_web/

collective全体について、またこのpress collectiveについてのご意見・ご感想が僕達の最大の活力源です！皆でもっと楽しいパーティを作りませんか？ぜひ上記WEBサイトから皆さんの声を聞かせてください！

pick up of the issue

ワカンタンインタビュー

アレハンドラな生活。

press collective

—名前由来について—

tawaki:ワカタンカの名前の由来を聞きたいのですが、調べたらこの名前、ネイティブ・アメリカンの神様ってことがわかったんですが・・・
 トンチ:せやねん、せやねん。ウチが大学の時にむっちゃネイティブ・アメリカンの本を読み漁っていた時期があって、それで2人でユニットを作ろうってことになって、名前考えなあかんやんか。それでどないしよかと思って、パッと本を開いたところに「ワカタンカ」ってあって。それでピンときて。
 tawaki:誤解されることも多々あるかと思いますが・・・
 カジ:「和歌と短歌」とか言われるな。「わかつたんか?」とかな。
 トンチ:「若貴」とかとも言われるな。
 tawaki:その場合「若ン貴」の「ン」は・・・
 カジ:「&」という意味の・・・
 tawaki:「GUNSN'ROSES」の「N'」みたいな・・・
 ワカン:そうそう(爆笑)
 tawaki:表記はいつもカタカナなんですか?
 ワカン:カタカナですね。
 トンチ:円にして「ワカタンカ」って書いたときに右回りでも左回りでも「ワカタンカ」って呼べるから・・・
 カジ:「山本山」ってこと。
 tawaki:納得。納得です。

—音楽的なバックグラウンドについて—

tawaki:音楽的なバックグラウンドとか教えてもらえますか?
 トンチ:何やろな。二人が中学校の時から廊下ですれ違いざまにハモったりしてたよな。中一の時に音楽会で中島みゆきの「浅い眠り」を二つのパートに分けて、ハモリ考えたよな。
 カジ:ずっとハモリを考えてたよな。
 トンチ:2人でハモるの考えることが根底にあって、聴く音楽とかは・・・
 カジ:ずっとバラバラやんな。
 トンチ:ジャンルはごちゃごちゃで自分たちがピンときたものに反応しているかな。
 カジ:ワタシは結構女の人の歌モノが好きかな。
 トンチ:オパハンとかの歌モノ。色んな国のオパハンの歌が好き。
 tawaki:はあ・・・ 例えは?
 カジ:朝崎郁恵(奄美・島唄の第一人者)さんとか。
 トンチ:あとなあ、モンゴルのオパハンのやつとか、アフリカの野太い声のオパハンのとか。
 カジ:ジャケ買いやんな。
 トンチ:もうCD買う時とかは、何も考えずにジャケ買いする。
 tawaki:「オパハン買い」みたいな?
 トンチ:オパハン買いする! ジャケ買いしたやつはだいたいはずれへんねん。

—スチール・ドラムについて—

tawaki:スチール・ドラムをするようになったきっかけを教えてください。
 トンチ:6、7年前にライブ見に行った時にスチール・ドラムたたいてる人がおって、音に一目惚れして、絶対習おうと思って、たまたま大学に行く途中にスチール・ドラム教室があって、そこでやり始めて。お金も溜まってたから、夏休みにトリニダード共和国に行ってきた。英語もしゃべられへんしチール・ドラムの) チームとかも知らなかったけど、人づてにどうにかこうにかチームに辿り着いて、直談判して教えてもらったのがきっかけ。そこで初めてスチール・ドラム買って、日本に持って帰ってきて、日本で習ってたんやけど、大学卒業してまた本格的にチームに入ろうと思って、トリニダード共和国に長いこと行ってたん。それまでにも2人で活動してたんやけど、スチール・ドラムをやりはじめてから曲が出てきて。もともとピアノをずっとやってたんやけど、全然曲とかを作ったことがなくて。だから生まれて初めて曲作ったのはスチール・ドラム。
 tawaki:じゃあ、やっぱりスチール・ドラムははずせない楽器だぞ?
 トンチ:そういうわけでもないねんな。きっかけは作ってくれたけど、今は曲を作っていく上でスチール・ドラムがなくていいとは思ってる。
 カジ:きっかけやな。
 トンチ:でも、スチール・ドラムって出来て100年もたっていない楽器やから、まだまだ可能性があって、トリニダード人がやってないことをやってスチール・ドラムを広めたっていうのはあるかも。
 tawaki:スチール・ドラムっていったら、ありあわせのもので作った楽器っていうイメージがあって、ストリートな楽器というか、土臭い楽器やなあと思うんですが・・・
 カジ:土臭いよな。
 トンチ:だってそこらへんにゴミで転がってるやつをたたいて作ってるもんね。
 tawaki:音はかわいいけど、結構「黒い」楽器ですよな。
 トンチ:黒い!
 tawaki:よく考えたらドラム缶ですもんね。
 トンチ:ただのドラム缶やもん、ほんまに。

tawaki:なるほどなるほど。よくわかりました。納得。納得です。ありがとうございました。ライブ楽しみにしてます!

初めまして。ワカタンカのトンチです。今は音楽をしたり、マッサージをしたりアルバイトをしたり、子供に楽器を教えたり、色んな所からちよつとずつ生活の糧を得て生活をしています。年齢も性別も様々な人々に出会って笑撃を受けます。すると自分の引出しがカラフルになります。視界の隅になんとか入ってくる珍妙なヒトやモノ。それは想像を超越して自分の中にめりめりしてきます。今。この場所。このタイミング。

トリニダード・トバゴに留学していた時、ウチはさっちゃん(カジ)とオカリナというベネズエラの女の子と家を借りて住んでいました。大家さんも優しくとても楽しく過ごしていました。ある日、突然女が転がり込んできました。ウチらの前にここに住んでいたそうで、大家さんによると、彼氏と住んでいたけど別れて、飛び出してきたらしいのです。「2、3日置いてあげて」と言われて仕方なくオッケーしたら、とんだ珍事件に巻き込まれてしまいました。女はアレハンドラというベネズエラの人で、豪快な眉毛の持ち主でした。彼女は「大変だったのよ」と言いながら、うちらが日本から持ってきたお菓子をいきなりむさぼっていました。先行きがかなり不安になりつつ数日を我慢する事に決めました。3日後。奴が「へい、ガーイズ。起きて手伝って頂戴」と朝早くからのたまっていたので、起きると何かこねていました。そしてそれをウチに渡し、奴は寝転び脇を挙げてこう言いました。「ワタシの腋にそれを塗って脱毛して頂戴」。があああん。断る隙も与えられず塗る羽目に。そして、奴はおもむろにM字開脚をし、ヒキガエルになり、更に自らパンツをTフロントにして奴の股が毛のカーニバルになりました。「ここもよろしく」。

午前9時。日本の裏側。トリニダード。我々は一体何をしにこんな遠い国にやってきたのか。意識不明になりながら、そして「あんた塗るのヘタクソね」とどやされながら異国の女の脱毛を施しました。そんなこんなでウチらの留学生活は幕を閉じました。世の中には自分の当たり前と裏側ほどかけ離れたヒトがいるもんですね。今もウチがパソコンに向かっている最中に宇宙ではトンでもないことが起こっていて、それがぐるぐるして繋がっていると思うと、ふわあつと浮きそうな気分になります。浮いても沈んでも自分の真ん中に戻ってくる事ができますように。それが日常生活。

◆ワカタンカWEBサイト

<http://sound.jp/wakantanka/>